

国語科 テーマ	文脈をつくる対話を通して、 論理的表現力を磨く授業と単元構成
------------	-----------------------------------

1 単元 つなかりに気をつけてよもう ～「サンゴの海の生きものたち」～

2 指導の立場

<子どもの実態から>

本学級の子どもは、説明的文章「すなはまに上がったアカウミガメ」の学習で、アカウミガメの産卵のためにする行動について、事柄の順序をおさえながら読み進めていった。そこでは、文章に合った写真や図などによる説明のわかりやすさに気づいたり、事物の仕組みなどの新たな情報を読みとることのおもしろさを感じたりしてきた。また、アカウミガメの産卵の様子を、一文ごとに文章の記述に即して動作化することで、説明されている内容を確認していった。本単元でも、サンゴの海の生きものになりきって、文章をもとに進んで表現していくことを期待したい。

<単元について>

本単元は、筆者の問題提示文と事例とのつながりを明らかにさせることで、サンゴの海の生きものの生態を読みとることができるようになることをねらっている。本教材で、筆者は、イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚という、二つの事例を挙げて説明することで、サンゴの海の生きものの共生の関係を、より説得力をもたせて読者に伝えようとしている。ここでは、叙述をもとに、生き物同士の会話を想像して書かせることで、それぞれの事例の生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのかをつかませていくことが大切である。さらに、二つの事例について、どちらがわかりやすいか話し合う活動を設定し、それぞれの説明の仕方の特徴に気づかせることで、比べて読むことのよさを感じられるようにさせたい。

<指導上の留意点>

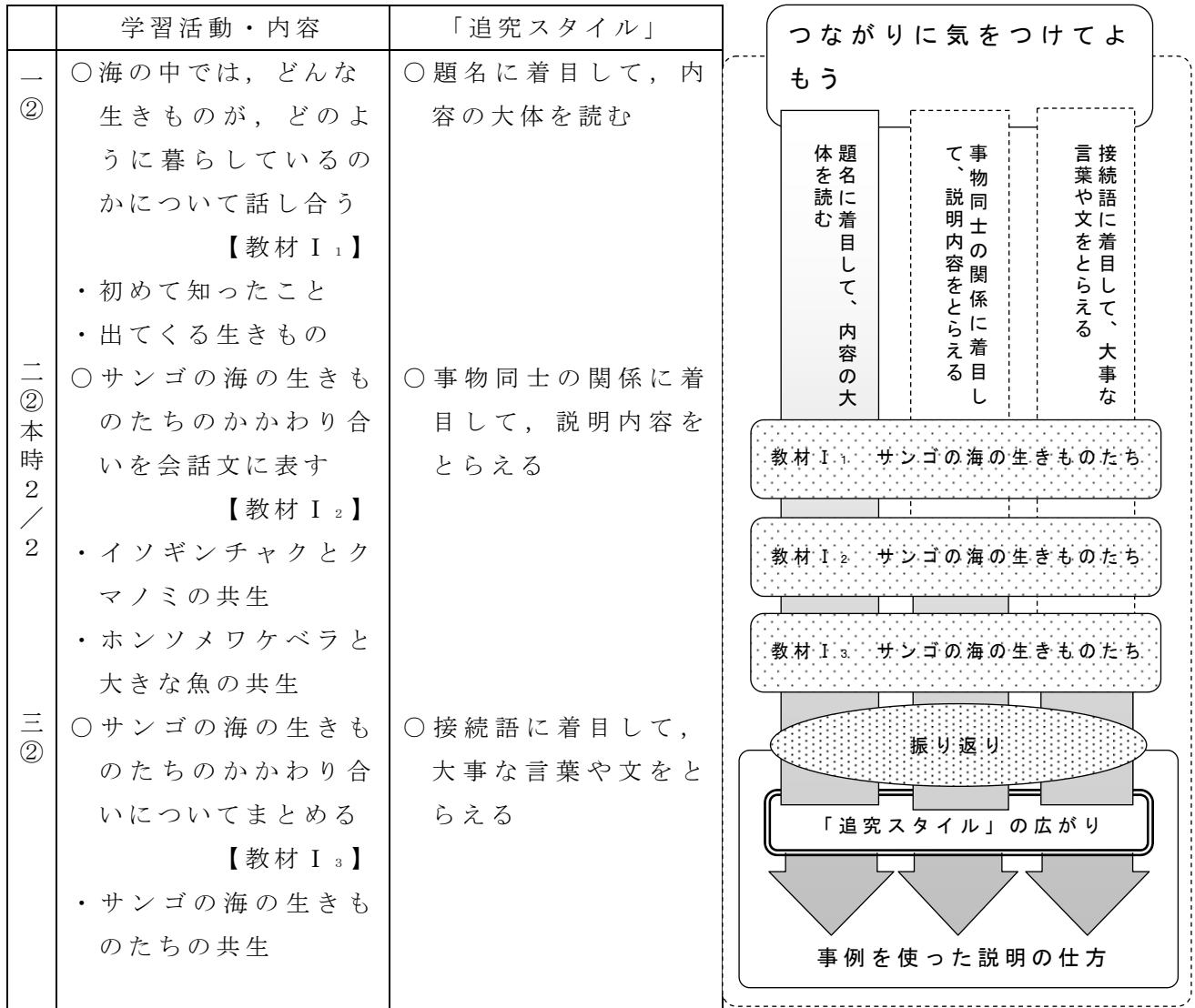
- 大きな魚は、ホンソメワケベラのためにどんなことをしているのか、問いかける。そうすることで、大きな魚についての記述に目を向けさせ、ホンソメワケベラにとっての共生の利点を考えていけるようにさせる。
- ホンソメワケベラと大きな魚のどちらかになりきって、二人組で一つの会話文をつくらせる。そして、どのようなことをしてあげているのか、どのようなことをしてもらっているのかについて、会話のつながりを考えながら書くことで、ホンソメワケベラと大きな魚の関係をつかむことができるようにする。
- クマノミとイソギンチャク、ホンソメワケベラと大きな魚という、二つの事例では、どちらのかかわり合いの説明の方がわかりやすいか、問いかけることで、事例の述べ方を比べて読んでいくことのきっかけをつかむことができるようにする。

### 3 目標

- (1) サンゴの海の生きものたちのかかわり合いを，どのように説明しているのか考えながら，楽しんで読み進めることができるようにする。
- (2) 二つの事例について，記述を確かめ，述べ方を比べることで，筆者の説明の仕方を吟味しながら，サンゴの海の生きものたちの共生の関係を読みとることができるようにする。

### 4 指導計画（総時数 約6時間）～広がり单元～

＜広がり单元の構成＞



### 5 本時案 ー第二次・2時分ー

#### (1) 主眼

叙述をもとに，ホンソメワケベラと大きな魚になりきって会話文を書くことで，事物同士の関係に目を向け，筆者が説明するサンゴの海の生きものたちのかかわり合いをとらえることができる。

#### (2) 準備

ワークシート，お面，教材提示装置，プロジェクター など

(3) 学習の展開

	学習活動・内容	教師の働きかけ
気づく	<p>1 大きな魚がホンソメワケベラにしていることについて話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べ物をあげていること</li> <li>・ 食べないでいること</li> </ul>	<p>＜「不安定状況」の設定＞</p> <p>T 大きな魚は、ホンソメワケベラに、どんなことをしてあげているか</p> <p>○大きな魚の行動を確認させるために、大きな魚について書かれている部分に線を引かせ、教材文に立ち返らせるようにする</p>
とらえる	<p>2 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを会話文に表す</p> <p>↓ 「学びの価値を見出そうとする」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホンソメワケベラと大きな魚の共生</li> </ul> <p>↓</p> <p>習得する「追究スタイル」 事物同士の関係に着目して、説明内容をとらえる</p>	<p>T ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなことを考えているか</p> <p>○自分の役の魚の思いを吹き出しに書かせることで、それぞれの魚になりきって考えやすくする</p> <p>T ホンソメワケベラと大きな魚は、どんな話をしているか</p> <p>《歩み出し③》</p> <p>○二人組でそれぞれの魚になりきり、互いの行動や話のつながり確かめながら、交代で会話文を書かせることで、筆者が説明する共生の関係をつかむことができるようにする</p> <p>◎ホンソメワケベラと大きな魚の共生について読みとっているかどうか、ワークシートの記述からみとる</p>
とらえなおす	<p>3 二つの事例の叙述の仕方を比べて、わかりやすさを発表し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例の述べ方の違い</li> </ul>	<p>＜新たな「不安定状況」の設定＞</p> <p>T どちらのかかわり合いの説明の方がわかりやすいか</p> <p>○それぞれの事例について、どんなかかわり合いをしているか、一言で言わせ、説明できるかどうかによって、わかりやすさを判断するきっかけを与えるようにする</p>

予想される子どもの反応		教師の対応
<p>○文章中の大きな魚という記述や写真からとらえたことや想像したことを、次のような立場に分かれて述べる</p> <p>ア 食べ物をあげる  イ 口を開けてあげる  ウ ホンソメワケベラを食べない  エ じっとして動かない  オ ホンソメワケベラを守ってあげている  カ 何もしてあげていない</p>	不安定	<p>○叙述から、大きな魚がしてあげていることを想像できないでいる子どもには、何もしないことが、ホンソメワケベラにとって、どんな利点があるか考えさせる</p>
<p>○ホンソメワケベラと大きな魚になりきって、吹き出しに以下のような考えを書く</p> <p><b>ホンソメワケベラ</b> おいしそうなお虫がいるよ この虫、大すきおなかいっぱい どうしてたべないの てきが来てもだいじょうぶ</p> <p><b>大きな魚</b> 口の中が気持ちいいよ はをみがいてくれてありがとう体がきれいになったよ 虫はおいしいの ぼくがまもってあげるよ</p> <p>○ホンソメワケベラ(以下⊕)と大きな魚(以下⊕)になりきって、次のような会話文を書く</p> <p>⊕ 今日はたくさん虫がついてるよ  ⊕ 本とう。どうも体がかゆいと思った  ⊕ ぼくがとってあげるね  ⊕ うん、たのむよ  ⊕ おいしそう、この虫、大すきなんだよ  ⊕ そうなの、よかったあ</p> <p>○発表を聞いて、魚の行動や話のつながりについて、考えをもったり、意見を述べたりする</p>	安定	<p>○友達の考えをいくつか紹介することで、それを参考にして想像を膨らませられるようにする</p> <p>○それぞれの魚になりきって、吹き出しに書いたものや、友達の意見を参考に話のつながりを考えながら、会話文をつくらせる</p> <p>○発表の際に、作成した会話文を拡大して投影することで、聞き手が、会話文のつながりに目を向け、発表に対する考えをもちやすくする</p>
<p>○どちらの事例についても、自分なりにとらえ、次のような理由を発表する</p> <p>ア イソギンチャクとクマノミのかかわり合いの説明の方がわかりやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かかわり合いについてまとめた文がある</li> <li>・イソギンチャクが守っていることと、クマノミが守っていることをどちらも書いている</li> </ul> <p>イ ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いの説明の方がわかりやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホンソメワケベラのことが多く書かれている</li> <li>・こちらに載っている写真が1枚多い</li> </ul>	不安定	<p>○イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚についての記述に引いた線を比べさせることで、魚同士の対応や説明の分量に目を向けて、それぞれのかかわり合いに気づかせるようにする</p>

国語科	「一・五人称の語り」を通して、
テーマ	論理的表現力を高める授業とカリキュラム（仮）

### 1 単元 筆者の主張について探ろう

～「花を見つける手がかり」（教育出版4年上）～

### 2 指導の立場

<子どもの実態から>

本学級の子どもは、「カレーの旅」では、「問題提示」「説明」「まとめ」の段落構成から、読み手の興味を引く表現の工夫を知った。「アップとルーズで伝える」では、問いかけ文と結論の不整合に気付いたり、足りない情報を明らかにして自分たちで補ったりした。それらの経験を通して、筆者の意図と述べ方の関係を意識して読もうとする姿が見られるようになってきている。

<単元について>

本単元は、筆者の主張と説明の仕方のつながりを吟味することを通して中心段落をとらえることをねらっている。本学習材では、もんしろちょうが花を見つける手がかりとして、「色」「におい」「形」の要素を提示し、三回の実験を通して消去法で結論を導く説明の工夫がしてある。しかし、実験が筆者によるものではなく、どの段落に筆者の主張の中心が書いてあるのか釈然としない。よって、ここでは段落同士のつながりを手がかりにしながら読ませていきたい。

<指導上の留意点>

- 「筆者が最も伝えたいことが書いてあるは、第14段落と第15段落のどちらか」について話し合わせることで、主張点がつかめるようにする。
- 筆者の主張の中心について、友達の意見を取り入れて、納得した理由を書くことができるようにする。

### 3 目標

- (1) 「仮説－実験－考察」による説明や推論の仕方に興味をもって、読み進めることができるようにする。
- (2) 段落同士のつながりに気をつけて読み、根拠をもって中心段落をとらえることができるようにする。

#### 4 指導計画（総時数 約7時間）

次	ねらい	学習活動・内容	「追究スタイル」
一 ②	○本文の内容の 大体を知り、 読みのめあて をもつことが できる	○初発の感想を書き、読みのめあ てをもつ ・よく分かったこと ・よく分からなかったこと ・ふしぎに思ったこと	○分かりやすさ について意識しな がら読む ○題名の意味を考 えて読む
二 ③	○筆者の段落構 成の工夫に気 付くことがで きる	○段落同士のつながりに気を付け て、三つの実験について読み取 る ・実験のねらい、準備、結果、考 察、次の実験で確かめること ○筆者の問いかけ文「いったい、 もんしろちょうは、何を手がかり にして、花を見つけるのでし ょう」に対する段落構成の仕方 について話し合う ・段落構成 ・接続詞の効果	○筆者の段落構成 の工夫について意 識しながら読む ○問題提示文と結 論との関係に注目 して読む
三 ② 本 時 1 ／ 2	○段落同士のつ ながりから、 中心段落を読 み取ることが できる	○「筆者の主張の中心が書いてあ るのは第14段落か第15段落か」 について話し合い、友達の考え を取り入れて、選んだ理由を書 く ・中心段落の把握 ・段落の構成	○筆者の主張の中 心を意識して読む ○段落構成に着目 して筆者の主張の 中心をとらえる

#### 5 本時案 -第三次・1時分-

##### (1) 主眼

友達の考えを取り入れながら、段落同士のつながりを意識して、中心段落を選んだ理由を書くことができる。

##### (2) 準備

拡大写真，ワークシート など

(3) 学習の展開

	学習活動・内容	教師の働きかけ
み つ め る	<p>1 もんしろちょうが花を見つける手がかりについて調べた実験を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花の色，形，においについての実験結果</li> </ul>	<p>T もんしろちょうは，何を手がかりにして，花を見つけるのか</p> <p>○ においや形が手がかりにならない理由を問うことで，三つの実験の結果を結論の根拠にする筆者の述べ方の工夫に気づかせる</p>
深 め る	<p>2 第14段落，第15段落の意味について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落構成の意味</li> <li>・中心段落の意味</li> <li>・問題提示文と結論との関係</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;不安定状況の設定&gt;</p> <p>T 筆者の主張は，第14段落と第15段落のどちらに書いてあるか</p> <p>○ 実験から導かれた結論である第14段落と，推論のよさが書いてある第15段落の，それぞれの段落としての意義に気付かせる</p> </div>
求 め る	<p>3 筆者の主張の中心が書いてある段落を選んだ理由を書く</p> <p>「<b>学びの価値を見出そうとする</b>」</p> <p>↓ ・中心段落の把握</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>「<b>追究スタイル</b>」</p> <p>○ 筆者の考えが書いてある段落と実験のことが書いてある段落を読み分けることで筆者の主張の中心をとらえる</p> </div>	<p>T 日高敏隆氏らが行った実験のことが書いてあるのはどの段落か</p> <p>○ 実験が筆者によるものではないことを振り返らせることで，筆者の意見として述べてある部分を浮き彫りにできるようにする</p> <p>T 友達のどんな意見が判断の決め手となったのか</p> <p>○ 友達の考えが書き込めるようなワークシートを用意することで，自分の判断の根拠を明確にできるようにする</p> <p>◎ 友達の考えを取り入れて納得のできる根拠を書き表しているか，ワークシートの記述からみとる</p>

予想される子どもの反応	教師の対応
<p>○ほとんどの子どもが色によって花を見つけることに気付いている</p> <p>○第 14 段落と第 15 段落は、両方大切なことが書いてあるという意見が出る</p> <p>◆第 14 段落は、「このような実験」という言葉で三つの実験をまとめていると主張する。また、「花を見つける手がかり」という題や、「いったい、もんしろちょうは何を手がかりにして、花を見つけるのでしょうか」という問題提示文とのつながりからこの段落を結論とする子どももいる</p> <p>◆第 15 段落は、最後にあるので全体のまとめだと考える子どもがいる。また、それまでは、もんしろちょうのことが書いてあるが、ここでは、こん虫の生活の仕組みをさぐることが書いてあり話題が変わるということから結論とする子どももいる</p> <p>○第 14 段落が筆者の中心の主張だと考えていた子どもが、筆者の考えが直接書いてある段落が第 1 段落、第 2 段落、第 15 段落の三つであることに気づき、考えを変える場合が出てくる。一方で、題や問題提示文との関係から第 14 段落であるという考えを変えない子どももいる。また、第 15 段落と主張していた子どもの中で、そう決めた理由を変えてくる子どもがいる</p>	<p>○答えを導けない子どもには第 14 段落の「このような実験から、もんしろちょうは、色によって花を見つけること、…（中略）…が分かりました」の記述に注目させる</p> <p>○判断の理由を一人一人にはっきりともたせるため、ワークシートに自分の考えやその根拠をあらかじめ書かせておく。そのワークシートを教師がみとっておき、板書で話し合いが焦点化できるように整理する</p> <p>○まず、4 人組、そして、クラス全体で話し合わせ、全員が自分の考えを語る場を保証する。その際、互いの考えで納得できるところとできないところを明確にして、質問し合うようながす</p> <p>○自分の考えをうまくまとめることができない子どもには、友達のことを紹介し、書き表し方の参考にするようながす</p>



生活科 テーマ	対象に意図をもってかかわる活動を通して、気付きの質を高め、 新たな生活を創造する子どもを育てる授業と単元構成
------------	---

1 単元 3つのゲーで ふげん寺をガイドしよう

2 指導の立場

<子どもの実態から>

本学級の子どもは、「むろづみってどんな町」で、室積のお店や公園などをめぐり、地域の人と話をしたり、気に入った場所を「むろづみ おすすめマップ」に表現したりして、室積が自然豊かで歴史のある町であることや、室積に住む人たちが町を大切に思い暮らしていることなどに気付き始めている。ここで室積のシンボルともいえる普賢寺に目を向け、その魅力について自分たちがガイドしていくことで、子どもたちは主体的に地域に働きかけていくようになるだろう。そして、自分たちのふるさと、室積への愛着が増していくことを期待したい。

<単元について>

本単元は、友達や地域の人、1年生とかかわりながら、自分なりの普賢寺の魅力を見出していくことをねらいとしている。そこで、寺の中をゆっくりと散策したり、境内で友達と遊んだり、住職や室積観光ガイドの人々と話をしたりして、普賢寺に対する子どもの思いや願いをふくらませていく。子どもは、象の石像や池に住むたくさんのカメに驚いたり、木々やお堂の立ち並ぶ境内でかくれんぼをしたり、観光ガイドに教えてもらった毛利家の家紋を夢中で探したりするであろう。そして、その中で感じたことや気付いたこと、そこでできる遊びの楽しさを、弟や妹のような1年生に伝えたいという思いをもつであろう。そのために、子どもは伝える内容を選び、伝え方を工夫していく。そうすることで、自分と普賢寺とのかかわりをさらに深め、新たな普賢寺の魅力に気づいていくと考える。

<指導上の留意点>

- 前時までには、子どもは、1年生にガイドしたい場所と内容を考え、ガイドルートを作った。本時では教師が選んだ二つのガイドルートを提示し、1年生が行きたいのはどちらか話し合わせる。そうすることで、自分と友達とらえている普賢寺の魅力の違いに目を向けることができるようにする。
- ガイドルートの見直しをする際には、普賢寺のものや空間のよさなどにふれた子どものカードを紹介することで、自分や友達の見出した新たな普賢寺の魅力に気付くことができるようにする。
- 多くの班が紹介したカメを例に出し、1年生がより楽しむために必要な表現について問いかけることで、1年生の興味をひくためには、多様なガイドの仕方があることに目を向けることができるようにする。

### 3 目標

- (1) 友達や地域の方，1年生と進んでかかわり，自分の思いを伝える楽しさを味わうことができるようにする。
- (2) 1年生にとって楽しいガイドになるように，ガイドする場所や伝え方など工夫して考え，1年生をガイドすることができるようにする。
- (3) 普賢寺を探検したり，普賢寺の中で遊んだり，1年生に普賢寺をガイドしたりして，普賢寺ならではのよさに気づくことができるようにする。

### 4 指導計画（総時数 約 16 時間）～広がり单元～

次	学習内容・活動	「追究スタイル」
一 ④	○ 普賢寺を探検する ・ 広い敷地 ・ 大きな木 ・ 池にいる多数のカメ ・ 厳かなたたずまいをした建物や門 ・ 本堂の中の様子 【教材 I 1】	○ 普賢寺の木々・池・建物やその場の様子に着目して，普賢寺ならではの魅力を見出す
二 ⑤	○ 普賢寺にかかわりのある人々と話をし，寺の中で遊ぶ ・ 普賢寺の空間を生かした遊び 【教材 I 2】	○ 普賢寺でできる遊びに着目して，普賢寺ならではの楽しみ方を見出す
三 ⑦ 本時 3 ／ 7	○ 1年生に普賢寺をガイドする ・ ガイドする場所と自分の見つけた普賢寺の独自性 ・ 自分が見つけた普賢寺の魅力の伝え方 【教材 I 3】	○ 自分の見つけた普賢寺ならではの魅力に着目して，自分なりのかかわり方を見出す

＜広がり单元の構成＞

普賢寺ならではの魅力を見出し，1年生に伝える

普賢寺の木々・池・建物やその場の様子に着目して、普賢寺ならではの魅力を見出す	普賢寺でできる遊びに着目して、普賢寺ならではの楽しみ方を見出す	自分の見つけた普賢寺ならではの魅力に着目し、自分なりのかかわり方を見出す
--	---------------------------------	--------------------------------------

教材 I<sub>1</sub> ふだんの普賢寺の様子を見にいこう

教材 I<sub>2</sub> 普賢寺で遊ぼう

教材 I<sub>3</sub> 1年生に普賢寺をガイドしよう

振り返り

「追究スタイル」の広がり

・ 普賢寺（室積）に対する愛着  
・ 身近な人とのかかわり方

### 5 本時案 ー第三次 3時分ー

#### (1) 主眼

二つのガイドルートをもとに，1年生が行きたくなるような工夫を見つけることで，ものや空間などの新たな普賢寺の魅力に気づき，ガイドルートの見直しをすることができる。

#### (2) 準備

ガイドルート，普賢寺の写真，ボード，「シンキングカード」 など

(3) 学習の展開

	学習活動・内容	教師の働きかけ
つかむ	<p>1 1年生が行きたいガイドルートについて話し合い、自分たちの班のガイドルートを見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普賢寺の空間を生かした遊び</li> <li>・普賢寺の独自性をつくっているもの</li> <li>・普賢寺のひみつ</li> </ul>	<p>&lt;「不安定状況」の設定&gt;</p> <p>T 1年生だったら、どちらのルートに行きたいか</p> <p>○普賢寺の魅力を多様な側面からとらえている班と、一つの面にこだわっている班のルートを提示し、自分と友達の普賢寺ならではの魅力のとらえ方の違いに目を向けさせる</p>
追求する	<p><b>「学びにおける立場を明らかにしようとする」</b></p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分とのかかわりで見つけた普賢寺ならではの魅力</li> </ul> <p><b>習得する「追究スタイル」</b></p> <p>今までに自分たちが見つけた普賢寺ならではの魅力に着目して、新たな普賢寺らしさを見出す</p>	<p>T 自分たちのガイドルートは、1年生に普賢寺のよいところが伝わるか</p> <p>《歩み出し②》</p> <p>○自分なりの普賢寺のよさを見出していた子どもの感想や、これまでの活動の写真などを紹介し、ルートを見直す際の手助けとする</p>
振り返る	<p>2 工夫したところや、初めのルートと比べてよくなったところを「シンキングカード」に書いて発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに見出した普賢寺らしさ</li> </ul>	<p>T 1年生に普賢寺のよいところを伝えるために、どんな工夫をしたか</p> <p>○初めのルートと見直したルートを見比べることで、自分たちが見出した新たな魅力に気づきやすくさせる</p> <p>◎「シンキングカード」に、ガイドルートの満足度を☆の数で表させたり、その理由を記述させたりすることで、子どもの達成感と見出した新たな普賢寺の魅力をみとる</p>
ひろげる	<p>3 1年生へのガイドの仕方について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく分かりやすいガイドの仕方</li> </ul>	<p>&lt;新たな「不安定状況」の設定&gt;</p> <p>T みんなが紹介したいカメについて、どうやってガイドするか</p> <p>○相手を意識した表現方法に気づいた子どもに発表させ、1年生に楽しんでもらうためのガイドの仕方に目を向けさせる</p>

予想される子どもの反応		教師の対応
<p>○自分と友達の普賢寺のよさのとらえ方の違いに目を向け、次のような立場に分かれる</p> <p>ア 1のルートは、普賢寺の遊びを中心にして考えている</p> <p>イ 2のルートは、普賢寺の遊びやひみつ、ものなどいろいろ入っている</p> <p>○どうすれば1年生に普賢寺ならではの魅力がよく伝わるか考え、次のような意見を出す</p> <p><b>遊び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊ぶ場所は○よりも△の方が、ひみつ基地みたいでおもしろいから、遊ぶ場所を変えようかな</li> </ul> <p><b>ひみつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家紋探しを入れると、もっと普賢寺のひみつが伝えられるよ</li> </ul> <p><b>もの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周る順番をかえると、もう一つ紹介できるよ</li> </ul>	不安定	<p>○ルートで出てきた場所の写真を提示したり、「遊び」「場所」「もの」「ひみつ」など色分けしたりすることで、二つのルートの違いを意識できるようにしておく</p> <p>○迷っている子どもには、教室に設置しているボードを示し、そこで行った活動について問いかけ、感じたことを想起させることで、普賢寺ならではの魅力を振り返ることができるようにする</p>
<p>○自分達の班のよくなった点を自覚して、次のようなことをカードに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普賢寺のひみつを二つにしたから、普賢寺のことがよく分かってもらえるよ</li> <li>・遊びだけじゃなくて、おすすめの場所も入れたから、おもしろくなったよ</li> <li>・周り方を変えたから、途中でカメも見せてあげられるよ</li> </ul>	安定	<p>○「シンキングカード」の記入に困っている子どもには、変えたところに印をつけ、そうした理由を聞くことで、普賢寺の新たな魅力を気付くことができた自分を意識できるようにする</p>
<p>○カメのガイドの仕方について、次のような考えを述べる</p> <p>ア クイズを入れて、カメのことを紹介すると、楽しくなる</p> <p>イ カメのことを物語にして、ペープサートで紹介すると、よく分かってもらえる</p>	不安定	<p>○ガイドの仕方を思いつかない場合には、イラストを使っでの説明や寸劇など、いくつかの紹介の仕方を提示する</p>

理 科	「自分の論理」の確かさを求める活動を通して、
テ ー マ	知を創造する子どもを育てる授業と単元構成

1 単元 つくって ためて つかってみよう（発展） ～電気の利用～

## 2 指導の立場

<子どもの実態から>

本学級の子どもは、乾電池や光電池を用いて、モーターを回す活動において、電流の強さや向きとモーターの回り方を関連づけて調べることができた。また、電磁石の学習では、条件を制御しながら仮説を立て、実験結果を表にまとめて、電磁石の強さを変える要因について説明することができた。電気エネルギーについては、乾電池の「電気パワー」は使うとなくなるが、光電池の「電気パワー」はつくり出すことができるという考えをもっている。また、ゲーム機で遊んだ経験などから、充電という言葉も抵抗なく使用しているが、自分の力で電気をつくったり、貯めたりすることができることに気づいている子どもは少ない。

<単元について>

本単元は、手回し発電機、電気二重層コンデンサ、ニクロム線、発光ダイオードなどを使い、電気の利用の仕方を調べ、電気の性質や働きについての考えをもつようにすることをねらっている。ここでは、子どもに電気をエネルギーとして実感させるための体験をさせることが大切である。そこで、子どもの力で電気をつくり出して、その電気を貯めたり、貯めた電気を、光、運動、熱などのエネルギーに変えたりしていく場を設定する。子どもは、自分の力で電気エネルギーをつくり出し、他のエネルギーとして利用することで、エネルギーの存在とつながりに気づいていくであろう。そして、これまでの電気に関する学習をエネルギーのつながりからとらえ直して説明したり、実生活において電気エネルギーを効率よく利用するための工夫について考えたりすることができるようになるであろう。

<指導上の留意点>

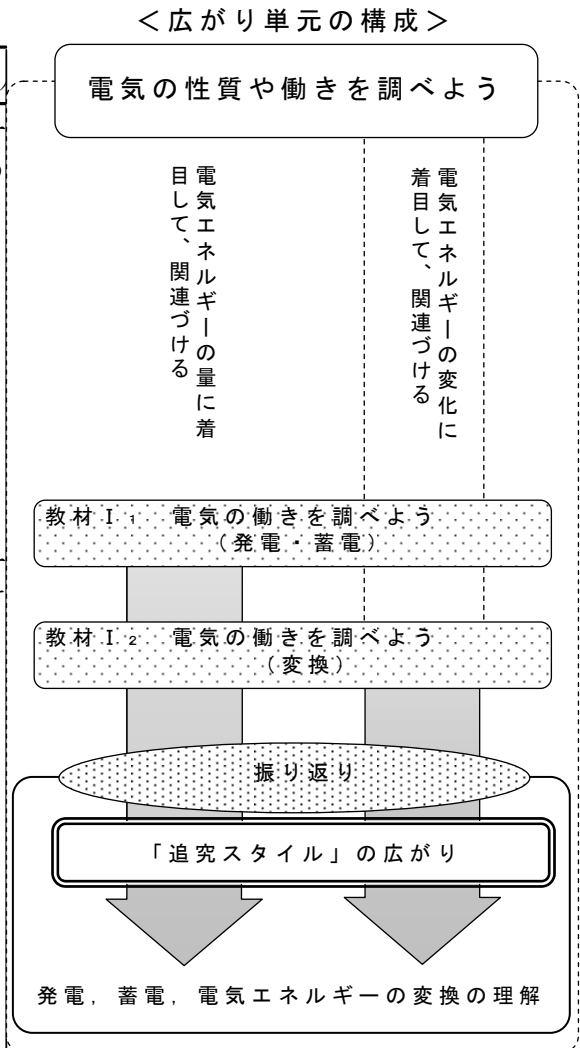
- 手回し発電機で異なる量の電気をつくり、二つの電気二重層コンデンサに貯めた後、プロペラ付きモーターを接続して、回転時間に違いが生じる様子を提示する。そうすることで、どのように手回し発電機のハンドルを回したら、電気二重層コンデンサにたくさんの電気を貯めることができるかについて自分の立場を明確にできるようにする。
- 仮説を確かめるために行った実験結果を、ホワイトボードを用いて表に整理し、交流させることで、手回し発電機のハンドルを回す回数が、電気二重層コンデンサに貯まる電気の量と関係あることに気づくことができるようにする。
- 結論を表現した後、他の方法でプロペラの回転時間を長くすることはできないかを問うことで、新たな課題を生み出すことができるようにする。

### 3 目標

- (1) 身の回りにおける電気の性質や働きを利用した道具に興味・関心をもち、発電や蓄電、電気による発熱などについて意欲的に調べることができるようにする。
- (2) 発電量や発熱量に違いが生じる原因を調べるために、条件を制御して実験の計画を立てたり、結果を考察したりすることができるようにする。
- (3) 電気は、手回し発電機や電気二重層コンデンサなどを用いて、作り出したり貯めたりできることや、光、運動、熱などに変換できることを理解できるようにする。

### 4 指導計画（総時数 約9時間）～広がり单元～

次	学習活動・内容	「追究スタイル」
一 ④ 本時 3 4	○手回し発電機やコンデンサの働きについて調べる  ・光電池による発電 ・電磁誘導による発電 ・発電と蓄電 ・コンデンサのつなぎ方	○電気エネルギーについて、関連づける
二 ④	○電気の利用方法について  ・電気エネルギーの変換 ・電気による発熱 ・電熱線の太さによる発熱	○電気エネルギーを利用して、関連づける
三 ①	○電気の性質や働きを利用して説明する ・学習のまとめ	



### 5 本時案 ー 第二次・3時分ー

#### (1) 主眼

電気二重層コンデンサに貯められた電気の消費時間を比べることで、貯まる電気の量は、手回し発電機のハンドルを回す数と関係があることを説明することができる。

#### (2) 準備

手回し発電機、電気二重層コンデンサ、プロペラ付きモーター、ホワイトボード、メトロノーム、ストップウォッチ など

(3) 学習の展開

	学習活動・内容	教師の働きかけ
気づく	<p>1 手回し発電機を用いて、電気二重層コンデンサにたくさんの電気を貯める方法を話し合い、実験を計画する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発電と蓄電</li> <li>・電気を貯めるための要因</li> </ul>	<p>&lt;「不安定状況」の設定&gt;</p> <p>T 手回し発電機のハンドルをどのように回すと、コンデンサに電気をたくさん貯めることができるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ハンドルの回し方を変えて二つのコンデンサに電気を貯める。その電気で、異なる時間プロペラが回転する様子を提示することで、ハンドルの回し方と貯まる電気の量との関係に目を向けさせる</li> <li>○「～すれば…だろう」という話型に当てはめさせることで、仮説をつくらせることができるようにする</li> </ul>
見通す	<p>2 実験を行い、結果から分かったことを表に表す</p> <p>「学びの価値を見出そうとする」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回す数による蓄電量の違い</li> <li>・回す速さによる蓄電量の違い</li> </ul>	<p>T どのような方法で調べられるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○プロペラの回転時間を比べさせることで、貯められた電気を量的にとらえて実験を行うことができるようにする</li> </ul>
比べる	<p>↓</p> <p>習得する「追究スタイル」</p> <p>貯まる電気エネルギーの量に着目して、手回し発電機のハンドルの回し方と関連づける</p>	<p>T 実験の結果から言えることは何か</p> <p>《歩み出し③》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験結果を表に整理し、ホワイトボードを用いて交流させることで、手回し発電機のハンドルを回す数が、貯まる電気の量と関係あることに気づくことができるようにする</li> <li>◎手回し発電機のハンドルの回し方と貯まる電気の量との関係が説明できているか、発言やワークシートの記述からみとる</li> </ul>
とらえ直す	<p>3 プロペラ付きモーターの回転時間を長くするための方法について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの電気二重層コンデンサの接続の仕方</li> </ul>	<p>&lt;新たな「不安定状況」の設定&gt;</p> <p>T 二つのコンデンサを用いて、プロペラの回転時間を長くすることはできないか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○乾電池2個とモーターをつないだときのことを想起させ、予想させる</li> </ul>

--	--	--



予想される子どもの反応	教師の対応																								
<p>○次の立場に分かれる</p> <p>ア 手回し発電機のハンドルを回す数を増やせば、電気をたくさん貯めることができるだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に、回す数を増やしたらずっとモーターが回っていたから（電流が流れ続けたから）</li> </ul> <p>イ 手回し発電機のハンドルを回す速さを増せば、電気をたくさん貯めることができるだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に速く回したら、豆電球が明るくなったから（電流が多く流れたから）</li> </ul> <p>○回す数について調べたいグループは、回す速さを揃え、回す速さについて調べたいグループは、回す数を揃えて、実験の計画を立てる</p>	不安定																								
<p>○次のような表より情報を読み取りながら、手回し発電機のハンドルを回す数と電気二重層コンデンサに貯まる電気の量との関係を説明する</p> <table border="1" data-bbox="167 1209 877 1355"> <tr> <td colspan="4">そろえる条件（速さ） 1秒間に2回ずつ</td> </tr> <tr> <td>調べる条件（回数）</td> <td>20</td> <td>40</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>プロペラの回転時間</td> <td>70秒</td> <td>110秒</td> <td>125秒</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="167 1406 877 1552"> <tr> <td colspan="4">そろえる条件（回数） 30回</td> </tr> <tr> <td>調べる条件（速さ）</td> <td>速く</td> <td>普通</td> <td>遅く</td> </tr> <tr> <td>プロペラの回転時間</td> <td>85秒</td> <td>85秒</td> <td>85秒</td> </tr> </table> <p>○手回し発電機のハンドルを回す数を増やせば、コンデンサに電気をたくさん貯めることができる</p>	そろえる条件（速さ） 1秒間に2回ずつ				調べる条件（回数）	20	40	60	プロペラの回転時間	70秒	110秒	125秒	そろえる条件（回数） 30回				調べる条件（速さ）	速く	普通	遅く	プロペラの回転時間	85秒	85秒	85秒	安定
そろえる条件（速さ） 1秒間に2回ずつ																									
調べる条件（回数）	20	40	60																						
プロペラの回転時間	70秒	110秒	125秒																						
そろえる条件（回数） 30回																									
調べる条件（速さ）	速く	普通	遅く																						
プロペラの回転時間	85秒	85秒	85秒																						

	不 安 定	
--	-------------	--

音楽科 テーマ	自らの音楽表現を見つめ直す活動を通して、音楽へのかかわりを 深めていこうとする子どもを育てる授業とカリキュラム
------------	--

### 1 題材 お話を思いうかべて～パフ～

### 2 指導の立場

<子どもの実態から>

本学級の子どもたちは、学校とその周辺で見つけた風景を音で表現する活動を経験している。そこでは、見たり聴いたりしたことを楽器の音や奏法に結びつけて表現しようとしてきた。そして、波や風の様子をマラカスやウインドチャイムなどを用いて表現する中で、音の組み合わせのおもしろさを感じ始めている。

<題材について>

本題材は、旋律や伴奏の音色、音の重なりを感じながらアンサンブルを楽しむことをねらいとするものである。ここでは、楽曲の音楽的な特徴を感じ取り、自らの表現に生かしていくことが大切になる。そこで、歌詞に着目して表現方法を工夫させていくことにする。子どもたちは、歌詞から思い描いた場面の様子に合うように自分なりの表現を工夫しながら、アンサンブルを楽しんでいくであろう。

<指導上の留意点>

- 歌詞から感じ取った場面の様子と曲想とのズレに気づかせることで、自分たちの音楽表現を見直す必要感をもたせるようにする。
- 互いの表現方法を試し合うことで、歌詞に合った表現を工夫していく手がかかりをもつことができるようにする。

### 3 目標

- (1) 旋律や伴奏の音色、音の重なりを感じながら、自分なりの音楽表現を楽しむことができるようにする。
- (2) 場面に合った様子を思い浮かべながら、演奏の仕方を工夫できるようにする。

#### 4 指導計画（総時数 約7時間）

次	ねらい	学習活動・内容	「追究スタイル」
一 ③	○「パフ」の曲の感じをつかんで、歌ったり合奏したりすることができる	○教科書掲載の歌詞や原曲の歌詞からジャッキーとパフのお話をつかみ、様子を思い浮かべながら歌ったり、それぞれのパートに合わせた楽器で演奏したりする ・旋律の流れ ・音の重なり	○「パフ」の旋律や音の重なりなどの特徴を感じ取り、自己の表現に生かす
二 ④ 本時 1 / 4	○歌詞から感じ取った場面の様子が伝わるように音楽表現を工夫することができる	○これまでの音楽表現を見直し、歌詞に合った表現方法を工夫する ・場面に合った速さ ・場面に合った音色 ・場面に合った音の重なり  ○1～5番の場面の移り変わりを音楽表現に結びつけ、グループごとに表現を工夫して発表会を行う ・場面に合った表現の工夫	○「パフ」の歌詞から場面の様子を考へて表現する  ○「パフ」の旋律や伴奏の音色、音の重なりの特徴を感じ取り、新たな表現に生かす

#### 5 本時案 -第二次・1時分-

##### (1) 主眼

5番の歌詞と曲想とのズレに気づき、歌詞に合わせた表現の工夫点を見出すことができる。

##### (2) 準備

リコーダー、キーボード、ワークシート、録音再生機材 など

(3) 学習の展開

	学習活動・内容	教師の働きかけ
気づく	<p>1 音色や音の重なりなどを感じながらグループごとに演奏する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌い方</li> <li>・ 音の重なり</li> <li>・ 楽器の選び方のおもしろさ</li> </ul>	<p>T それぞれのグループはどんな点を工夫しているか</p> <p>○自分たちの演奏と他のグループの演奏を比べ、共通点や相違点を見つけさせるようにする</p>
試す	<p>2 ジャッキーとパフの別れの場面を表す5番の歌詞と曲想とのズレに気づき、歌詞に合わせた音楽表現を工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌詞から感じ取った場面の様子</li> <li>・ 歌詞と曲想とのズレ</li> </ul> <p>「学びの方向を考えようとする」</p> <p>↓</p> <p>・ 歌詞に合わせた表現の工夫点</p> <p>↓</p> <p>習得する「追究スタイル」</p> <p>「パフ」の歌詞から場面の様子を考へて、表現方法を工夫する</p>	<p>T 自分たちの演奏は「パフ」の話をうまく表現できているか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;不安定状況の設定&gt;</p> <p>T 5番の歌詞の内容と今までの演奏は合っているか</p> <p>○5番の歌詞と曲想とのズレに気づかせ、自分たちの表現を見直す必要感をもたせるようにする</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;歩み出しの場の設定&gt;</p> <p>T 5番は、どのように演奏すればよいか</p> <p>○さまざまな表現方法を試し、歌詞に合った表現を工夫していく手がかりをもつことができるようにする</p> </div> <p>《歩み出し①》</p> <p>◎歌詞に着目しながら表現を工夫しようとしているかを発言内容や演奏の仕方からみとる</p>
生かす	<p>3 5番の歌詞に合わせた表現の工夫の仕方についてグループごとにまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌詞に合わせた表現</li> </ul>	<p>T グループごとの演奏では、どのような工夫をしたいか</p> <p>○意図と表現方法を結びつけながら、グループごとの工夫をワークシートに書かせるようにする</p>

予想される子どもの反応		教師の対応
<p>○互いの演奏を聴き合い、工夫点やよかった点などを見つけ、発表しようとする</p>	安定	<p>○他のグループには見られなかった演奏の仕方を取り上げ、価値づけていくようにする</p>
<p>○5番の歌詞の前半と後半の内容に着目し、次のような意見をもつ子どもがいる ア、歌詞の前半の「ごめんね」や「さよなら」は、今までの楽しい演奏と合っていないのではないか イ、歌詞の後半には、パフからジャッキーへのやさしいメッセージがあるので、今までの表現方法でよいのではないか</p> <p>○別れの様子を表現するためにゆっくり演奏したり、キーボードの音色を変えたりする子どもがいる。また、歌う人数を減らしたり、打楽器を効果的に用いたりしようとする子どもがいる</p>	不安定	<p>○互いの考えを交流することによって、歌詞に対するとらえ方の違いを明確にさせるようにする</p> <p>○今までの表現でよいと考える子どもには、歌詞の前半部分について、表現方法を工夫していくよう投げかける</p> <p>○試した演奏を録音し、聴かせることによって、表現しようとした意図が伝わっているか確かめることができるようにする</p>
<p>○自分たちが試した表現方法や他のグループが試した表現方法の中から、別れの場面に合ったものを選び、歌や楽器の組み合わせを工夫しようとする</p>	安定	<p>○表現方法の工夫に困っているグループには、歌詞の言葉ごとに表現方法を考えさせるようにする</p>

## 1 題材 「2年1組びじゅつかん」～みて・感じて・語って～

### 2 指導の立場

子どもたちは、「生まれかわった材料たち」の表現活動において、日常で使われている変わった形を色々な生き物に見立てていく活動を通して、形を多面的に見ていくことを楽しめるようになってきている。日常生活の中でも、拾ってきた石や木を何かに見立てて遊んだり、偶然できた形を利用して「○○みたい」と言ったりする姿が見られるようになってきた。また、鑑賞活動では、友達の作品をみながら、その作品から感じとられるよさや美しさについて語り合う活動を行ってきている。人の作品を見るのは好きで、積極的に自分の思いを発言しており、美への憧れや自分なりのよさや美しさの枠組みを広げていこうとする意欲を強く感じる。そこで、色や形に特徴のある作品を用いて話し合う活動を行い、友達の多様なものの見方・感じ方にふれさせることで、自分のよさや美しさの枠組みを広げさせるとともに、美術作品を楽しみながらみることができるようになってほしいと考える。

本題材は、自分なりのものの見方・感じ方をもとに、作品から感じとられるよさや美しさについて語り合う活動を通して、自分なりよさや美しさの枠組みを広げ、みることに関心をもてるようになることをねらいとしている。カンデンスキーの「アンサンブル」は、抽象作品である。様々なものが抽象的な形で表現されており、何が表現されているか、想像をめぐらせながら自由に自分の思いや考えを語り合いやすい作品である。したがって、ここでは、自分なりのものの見方・感じ方を、具体的な根拠をもとに友達に伝えられるようになることが大切となる。そこで、対話型鑑賞活動を行う中で、一つ一つの形や色に着目させる場や状況を設定する。子どもたちは、形や色から見立てたり想像をめぐらせたりしながら、自分なりによさや美しさの根拠をとらえていくことができるだろう。また、自分なりにとらえたよさや美しさの根拠を語り合っていくことで、自分なりのものの見方・感じ方はどんなものなのかを再確認したり、新たなものの見方・感じ方を獲得したりすることができ、自分なりのよさや美しさの枠組みを広げることができるだろう。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意したい。

- 自分なら何という題をつけるか考えさせ、その根拠を語り合わせることで、多様なものの見方・感じ方があることに気づかせるようにする。
- お家の人にこの絵を紹介する「アート紹介本」に、誰のどんな意見に影響を受けたかを書き残させることで、自分のものの見方・感じ方やよさや美しさの枠組みの変化、広がりにつづくことができるようにする。

### 3 目標

- (1) 様々な想像を働かせ、楽しみながら作品を見ることができるようになる
- (2) 作品について語り合いながら、多様なものの見方・感じ方があることに気づくことができるようになる
- (3) 自分なりの作品紹介文を書くことができるようになる

### 4 指導計画（約3時間）

- 第一次 カンデンスキーの「アンサンブル」について語り合い、作品紹介文を書く・・・①（本時）
- 第二次 アンディーウォーホルの「マリリン」について語り合い、題を付ける・・・①
- 第三次 シャガールの「7本指の自画像」について語り合い、がんばっている自分を表現する・・・①

本時案 ー第一次・1時分ー

- 1 主 眼 自分が考えた題名の根拠と、友達が考えた題名の根拠について語り合う活動を通して、多様なものの見方・感じ方があることに気づき、それをもとに自分なりの作品紹介文を書くことができる。
- 2 準 備 「アンサンブル」 ワークシートなど
- 3 学習の展開

前の学習		
(過程)学習活動・学習内容 (予想される子どもの反応)		教師の働きかけ
気づくもの見方・考え方を広げる振り返る	1 始めて作品をみた感想を発表する ○へん。変な形で何についてかいてあるかわからない ○きれい。色がカラフルだから ○面白い。形が面白いから ・自分なりのよさや美しさの枠組みの自覚	T 初めてこの絵をみて感じたことは何か ㊦ 一言感想を発表させた後に、自分はどの意見に近いか挙手させることで、現時点での自分のよさや美しさの枠組みを自覚させる
	2 作品に自分なりの題を付け、その根拠をもとに絵について語り合う ○1番大きな形が島みたいだよ ○色がキラキラしているので宝石箱みたい ○ハーブがあるから、音楽の世界かな ・自分なりの根拠の自覚  ○楽器みたい ○網みたい ○かごみたい ・形からの見立て  ○音楽の世界だから音符かな ○音楽の世界だから音そのものかな ・作者の表現意図に対する自分なりの意味づけ	T 自分の考えの根拠となる形はどれか ㊦ 表現してある一つ一つの色や形について見立てをさせてから、作品の題を考えさせることで、自分なりの根拠をもつことができるようにする  T ピンクの鳥みたいなのが付いているものは何に見立てることがきるか ㊦ 他にも楽器に見立てるものはないか考えさせることで、作者の表現意図に気づかせるようにする  T 周りにちりばめられている丸い形は何を意味しているのか ㊦ 音楽という言葉から連想できることを考えさせることで、表現の意味を自分なりにもたせるようにする
	3 作品の紹介文を書き発表する ○始めは、宝石箱かと思いました。でも、○○君の音楽の世界という言葉がいいなと思いました。だから、この絵は、音楽の世界を表していますキラキラして楽しい絵です ○始めは島にへんな生き物がいる絵だと思いました。でも、△△君が言うように、楽器に見える形を探してみると、他にも、バイオリンや笛みたいなものがありました。色々なものが隠されたふしぎな絵です ・ものの見方・考え方の広がり ・自分なりのよさや美しさの枠組みの広がり	T この作品のおすすめポイントはどこか ㊦ 誰の意見に賛同したか書かせることで、友達と関わることのよさを実感させるとともに、ものの見方・考え方や自分なりのよさや美しさの枠組みの広がりを感じさせるようにする ㊦ 作品の説明文が書けない子どもには、板書を振り返らせながら、どの意見に共感できるか考えさせることで、作品の説明文を書く視点を持たせるようにする ㊦ 見立てたものを根拠に、自分なりに作品の説明ができているか、ワークシートの記述や発言からみとる
後の学習	アンディーウォーホルの「マリリン」について語り合い、題を付ける	



図画工作科	美的体験をつなぎ合わせる活動を通して、
テーマ	自分なりの美を追求しようとする子どもを育む授業とカリキュラム

### 1 単元 お部屋をかざろう ～生け花 色あそび～

### 2 指導の立場

<子どもの実態から>

本学級の子どもは、水性絵の具を使った色遊びやローラーを使った版遊びを通して、好きな色を自由に用いて表現を楽しむようになってきている。ここでは、色の組み合わせにより、多様な表現が生まれるような活動を行わせることで、色にこだわった表現をする子どもになっていくことを期待したい。

<単元について>

本単元は、配色を楽しみながら表現していく活動を通して、意図的に色を使って表現できるようになることをねらいとしている。ここでは、配色を工夫していくことで、自分なりの表現の幅が広がっていくことに気づかせることが大切である。そこで、生け花による表現活動と作品を鑑賞する場や状況を設定する。生け花は、色の組み合わせにより多様な表現ができ、修正もしやすい。子どもたちは、自他の生け花のよさや美しさを比べることで、色での表現にはさまざまな配色の仕方があることに気づき、その後の表現活動で生かしていくようになるだろう。

<指導上の留意点>

- 配色の違いでグループ分けさせ、そのよさや美しさについて語り合わせることで、色を生かすための有効な表現方法に気づかせるようにする。
- 気に入った配色の仕方を考えさせてから、もう一度生け花をさせることで、造形要素から感じとった新しいよさや美しさを自覚できるようにする。

### 3 目標

- (1) 色の使い方を工夫しながら、生け花を楽しむことができるようにする。
- (2) 配色の違いをもとに、作品をグループ分けすることができるとともに、それらのよさや美しさに気づくことができるようにする。

#### 4 指導計画

<p>表現領域</p> <p>◇生まれかわったざいりょうたち (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見立て遊びをして見立ての仕方を探る</li> </ul> <p>◇材料変身 (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料の特徴を生かして立体表現する</li> </ul>	<p>鑑賞領域</p> <p>◇2年1組びじゅつかん (3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンデンスキー「アンサンブル」の見立てから感じ取ったよさや美しさに気づき、何を伝えたかったのか題を考える</li> <li>・ウォーホル「マリリン」の色から感じ取ったよさや美しさに気づき「今の気分は何色？」を表現する</li> </ul>
--	--

次	ねらい	学習活動・内容	「追究スタイル」
本時	○自分が部屋に飾りたい花を生ける活動を通して、意図的に色を使って表現できるようになる	○部屋に飾りたい生け花をし、配色の違いでグループ分けをしてから、各グループのよさや美しさについて語り合い、その後もう一度、部屋に飾りたい生け花をする ・配色を工夫した生け花	○色に着目して、意図的に技法を用いる

<p>表現領域</p> <p>◇シールでようふうのもようをつくらう ～色・形をくふうして～ (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シールで模様をデザインする</li> </ul>	<p>鑑賞領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャガール「7本指の自画像」の色や形から感じ取ったよさや美しさに気づき、「○○にがんばっている自分」を表現する</li> </ul>
--	--

#### 5 本時案

##### (1) 主眼

配色の違いによる表現のよさや美しさについて語り合う活動を通して、色の選択や組合せにより、多様なものの見方・感じ方が生まれることに気づき、それを生かしながら、部屋に飾る生け花を楽しむことができる。

##### (2) 準備

生花，花瓶，ホワイトボード，実物投影機 など

(3) 学習の展開

	学習活動・内容	教師の働きかけ
<p>表現する</p> <p>もの</p> <p>の見方</p> <p>・感じ方を広げ</p> <p>る</p> <p>振り返る</p> <p>・表現する</p>	<p>1 家族が集まる場所に飾ることを考えて、生け花をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな色を使った生け花</li> </ul> <p>2 完成した生け花をグループ分けし、それぞれのよさや美しさについて語り合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形要素の抽出</li> <li>・同一色相配色</li> <li>・対照色相配色</li> </ul> <p>3 配色の仕方を工夫してもう一度生け花をつくる</p> <p>「学びの価値を見出そうとする」</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色に対するこだわり</li> <li>・配色の仕方に対するとらえ</li> </ul> <p>習得する「追究スタイル」</p> <p>配色の仕方に着目して、意図的に表現に用いる</p>	<p>T どんな色の花を飾りたいか</p> <p>○自分や家族が喜ぶ花の色を考えさせてから表現させることで、色に着目しやすくする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;不安定状況の設定&gt;</p> <p>T 色の工夫の仕方でどんなグループ分けができるか</p> <p>○配色の仕方の違いでグループ分けしたものにグループ名を付けさせることで、自分の表現の傾向に気づかせる</p> </div> <p>T 色合いがよいのはどれか</p> <p>○自分の生け花と気に入った生け花の違いを理由付けさせることで、今まで気づかなかった造形要素のよさや美しさや、色を生かすために有効な表現方法に気づかせるようにする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;歩み出しの場の設定&gt;</p> <p>T 工夫したいポイントはなにか</p> <p>○使ってみたい色の組み合わせをカードに書かせることで、意図を明らかにして表現できるようにする</p> </div> <p style="text-align: right;">《歩み出し③》</p> <p>○配色の仕方を意識した表現を工夫しようとしているか、表現意図についての発表や表現物からみとる</p>

予想される子どもの反応		教師の対応
○自分の好きな色を自由に使って、生け花を楽しむ子どもがいる	安定	○好きな色の花や、見て気に入った色の花を飾るよう助言する
○使用した色の種類や数、配色の工夫などをもとにグループ分けを行う ア、好きな色を好きな数使って表現しているグループがある イ、配色の仕方を工夫して表現しているグループがある  ○同一色相配色や対照色相配色、単色などのよさや美しさに気づき、それらについての自分の思いを語る子どもがいる	不安定	○工夫したポイントはどこかを聞きながら、作品同士を見比べさせることで、同じ工夫のあとが見られる作品はないか探すよう助言する  ○同じことを感じたときには、挙手させることで、新たなものの見方・感じ方を自覚させる
○新たに知った表現方法をもとに、新たにイメージを膨らませたり、今までもっていたイメージをより明確にしたりして、次の表現活動に生かしている子どもがいる ・同じような色合いで配色された作品 ・色合いの異なる2色で配色された作品 ・一つの色が引き立つような配色をしている作品 ・全て違う色が同じ数使われている作品	安定	○目的を再確認させると共に、参考にしたい作品がないかもう一度見て回らせることで、表現のイメージをもたせるようにする ○食卓や学習机、棚などの場所をイメージしやすい「マイギャラリー」に展示させることで、客観的に振り返ることができるようにする

家庭科 テーマ	実生活への役立ち感を吟味する活動を通して、 生活観を更新していく子どもを育てる授業と単元構成
------------	---

1 単元 洗たく達人への道 ～衣服を整えよう～

2 指導の立場

<子どもの実態から>

本学級の子どもは、自分の生活を見直し、家族のことを考えて自分にできる家庭の仕事をを見つけ取り組んだり、家族と一緒に過ごす時間を増やしたりするなど、時間の使い方を工夫しながら生活しようとしている。また、自分や家族の生活に合った理想の朝食を考案し、材料の生かし方や後片付けの仕方を工夫しながら、環境へも配慮して朝食に合うおかずを作ることでもできた。しかし、学習した一つ一つの知識や技能をつなぎ合わせ、生活を総合的にとらえて工夫しようとする姿勢が、十分身につけているとはいえない。このような子どもたちが、家庭生活を自分ごととしてとらえ、自分にもできる洗たくの仕方を見出すことによって、よりよい生活者となるための実践力を身につけ、自分の生活に自信をもつことができるようになることを期待したい。

<単元について>

本単元は、衣服を気持ちよく着るためには、手入れが必要であることを理解し、手洗いを中心とした洗たくができるようになることをねらっている。ここでは、手洗いと洗たく機洗いを比較することを通して、それぞれのよさを理解し、洗たく物の量や汚れ具合、生活場面などに応じて、よりよい方法で洗たくできるようになることが大切である。そこで、靴下をいろいろな方法で洗う活動を設定する。そして、汚れ落ちの面や環境面からは手洗いがよいことや、洗たく機洗いは労力がいらず他のことをしながらでもできることなど、それぞれのよさに気づくことができるようにする。このような活動を通して、子どもは、日常、家の人がどのようなよさを取り入れて洗たくしているのかということに目を向けながら、自分にできる方法を考え、工夫して洗たくすることができるようになるであろう。

<指導上の留意点>

- 汚れのひどい靴下を提示し、どのような方法で洗たくすれば汚れをきれいに落とすことができるかを予想させ、話し合うことにより、互いの見方や考え方の違いに気づき、よりよい洗たくの仕方に目を向けることができるようにする。
- 靴下の手洗いや洗たく機洗いなどを同時に行い、洗い上がりと比較することにより、汚れの落ち具合や節水といった点からは、手洗いがよいことを確認できるようにする。
- 手洗いで洗たくすることが、自分や家族、環境にとって、本当に有効かを吟味することで、生活場面や生活スタイルに合った洗たくの仕方を再調査する必要性に気づき、自分にも家族にも環境にも、バランスよく役立つ方法を模索することができるようにする。

### 3 目標

- (1) 衣服とそのはたらきや日常着の着方と手入れに関心を持ち，自分の衣服を整えることができるようにする。
- (2) 日常着を目的に合わせて工夫して着たり，汚れに応じて自分の衣服を工夫して洗たくしたりすることができるようにする。
- (3) 衣服のはたらきや気温や季節，生活場面に合わせた着方がわかり，衣服の手入れの必要性和洗たくの手順や方法を理解することができるようにする。

### 4 指導計画（総時数 約7時間）～広がり单元～

次	学習活動・内容	「追究スタイル」	〈広がり单元の構成〉
一 ②	○衣服を気持ちよく着るための工夫や手入れの必要性をとらえる <b>【教材 I<sub>1</sub>】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服のはたらき</li> <li>・日常着の適切な着方</li> <li>・日常着の手入れの方法</li> <li>・洗たくの必要性</li> </ul>	○見た目や気持ちよさに着目して，衣服を整える必要性をとらえる	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">〈広がり单元の構成〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">衣服を整えよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">             要衣よ見 性服さた ををに目 と整着や らえ目気 えるし持 る必てち           </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">             整よ果表 えりに示 方よ着や をい目実 を考衣し 察服の すの`結           </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">             考衣しス生 察服てタ活 すの`イ場 る整より面 えりにや 方よ着生 をい目活           </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">             教材 I<sub>1</sub> 洗たく達人への道 ステップ①           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">             教材 I<sub>2</sub> 洗たく達人への道 ステップ②           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">             教材 I<sub>3</sub> 洗たく達人への道 ステップ③           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center; background-color: #e0e0e0;">             振り返り           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">             「追究スタイル」の広がり           </div> <div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">日常着の気持ちよい着方と手入れの仕方</p> </div>
二 ③ 本時 3 ／ 3	○手洗いと洗たく機洗いを比較し，それぞれのよさに気づく <b>【教材 I<sub>2</sub>】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態調査</li> <li>・取り扱い絵表示</li> <li>・洗たくの実習計画</li> <li>・手洗いによる洗たく</li> <li>・手洗いと洗たく機洗いの違い</li> </ul>	○表示や実験の結果に着目して，よりよい衣服の整え方を考察する	
三 ②	○家庭での再調査や洗たくの実践をもとに，衣服を気持ちよく着るための工夫について話し合う <b>【教材 I<sub>3</sub>】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での再調査と実践</li> <li>・家庭実践発表会</li> </ul>	○生活場面や生活スタイルに着目して，よりよい衣服の整え方を考察する	

### 5 本時案 一 第二次・3時分一

#### (1) 主眼

手洗いや洗たく機洗いで靴下を洗たくし，汚れの落ち具合を比較することにより，手洗いで洗たくすることのよさに気づき，家族の一員としてよりよい洗たくの仕方をとらえ直すことができる。

#### (2) 準備

靴下，洗い桶，洗濯機，洗剤，ワークシート など

(3) 学習の展開

	学習活動・内容	教師の働きかけ
見通す	<p>1 靴下の洗たくの仕方について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れがよく落ちると思う洗い方とその理由</li> <li>・家庭での洗たくの仕方</li> </ul>	<p>&lt;「不安定状況」の設定&gt;</p> <p>T 靴下の汚れをきれいに落とすには、手洗いと洗たく機洗いのどちらがよいか</p> <p>○汚れの落ち具合の違う靴下を提示することで、洗い方によって洗い上がりには差が出ることに気づかせ、よりよい洗たくの仕方について話し合うことができるようにする</p>
追究する	<p>2 手洗いや洗たく機洗いを行い、汚れの落ち具合を比較する</p> <p>「学びの価値を見出そうとする」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いのよさ</li> <li>・環境との関係</li> <li>・消費者の立場</li> </ul> <p>↓</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>習得する「追究スタイル」</p> <p>手洗いと洗たく機洗いを比較した実験の結果に着目して、よりよい洗たくの仕方を考察する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いと洗濯機洗いの比較</li> </ul>	<p>T 結果から、どのようなことがわかったか 《歩み出し③》</p> <p>○自分なりのこだわりをもって洗たくし、友達と汚れの落ち具合を比較させることで、手洗いを取り入れることにより、汚れ落ちがよくなることを実感できるようにする</p> <p>◎何通りかの洗い方を比較した結果から、手洗いのよさに気づいているか、発言やワークシートの記述からみとる</p> <p>T 手洗いのよさは、汚れ落ちの面だけか</p> <p>○手洗いと洗たく機洗いを同時に行った結果から、汚れの落ち具合だけでなく、経済面や環境面などにおいても、手洗いがよいことに気づくことができるようにする</p>
とらえ直す	<p>3 手洗いと洗たく機洗いの役立ち感を吟味する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分、家族、環境にとって最もよい洗たくの仕方</li> <li>・再調査の必要性</li> <li>・家庭実践への意欲</li> </ul>	<p>&lt;新たな「不安定状況」の設定&gt;</p> <p>T よりよい洗たくの仕方とは何か</p> <p>○靴下をいつも手洗いすることが、自分や家族、環境にとって、本当に最善の方法かを吟味することにより、洗たく物の量や大きさ、そのときの状況などにも目を向けることができるようにする</p>

予想される子どもの反応

教師の対応

--	--	--



<p>○これまでの経験や家庭での調査をもとに、以下のような意見に分かれる</p> <p>ア 手洗いすればよい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れの部分を集中的に洗うことができる</li> </ul> <p>イ 洗たく機で洗えばよい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の方が人の手よりパワーがあるはずだ</li> <li>・汚いから手では触りたくない</li> </ul> <p>ウ 手洗いした後に洗たく機で洗えばよい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母がやっているのを見たことがある</li> </ul>	不安定	<p>○事前に行った各家庭での洗たく調査をもとに予想を立て、友達の方法と比べさせることで、互いの見方や考え方の違いに気づくことができるようにする</p>
<p>○手洗いと洗たく機洗いの比較から、手洗いの方が汚れをよく落とすことができることを確認する</p>	安定	<p>○濡れている状態だと、結果に納得できない子どもには、事前に洗たくし乾かしておいた靴下を提示することで、汚れの落ち具合を比較できるようにする</p>
<p>○他の側面から見た手洗いのよさに気づくとともに、洗たく機洗いのよさにも目を向け始める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いは、洗剤や水の量が少なくてすむので経済的だし、環境にもよい</li> <li>・洗たく洗いは、汚れ落ちや環境面では手洗いより劣るが、楽である</li> </ul>	不安定	<p>○汚れ落ち以外のよさに気づかない子どもには、それぞれの洗い方で使用する洗剤と水の量を具体的な数値で示すことで、経済面や環境面へも目を向けることができるようにする</p>
<p>○自分の実生活と照らし合わせながら、よりよい洗たくの仕方を吟味し始める</p> <p>ア 手洗いが一番よい方法だ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも清潔な靴下をはくことができる</li> <li>・入浴のついでに洗えば環境にもよい</li> </ul> <p>イ 手洗いと洗たく機洗いを組み合わせたい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いは、労力があるので毎日は無理である</li> </ul> <p>ウ やって見ないとわからない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とりあえず手洗いを実践してみようと思う</li> </ul>	不安定	<p>○本当にできそうかどうかを明らかにさせることで、学んだことを取り入れながら、自分に合った洗たくの仕方を見出す必要があることに気づかせる</p>

#### 4 指導計画（総時数 約 26 時間）

次	ねらい	学習活動・内容	「追究スタイル」
出 会 い ⑧	○今、自分がもつデータをもとに、地球環境と人の関係に目を向けることができる	○「地球にやさしい人・もの・こと探し」で得たデータをもとに語り合う ・地球環境と人との関係への着目	
課題設定②	○予想を明らかにする自分なりの追求方法を見つけることができる	○「地球人の品格」について予想する ・地球環境にやさしい生活の在り方についての予想	
課題追求⑭ 本時8 /14	○新たに見出した自分なりの「地球人の品格」をもとにして、生活の在り方と地球環境との関係を自分とのかかわりでとらえることができる	○調査して得たデータをもとに語り合いながら、「地球人の品格〇か条」をまとめる ・買い方・食べ方・暮らし方などと地球環境の関係 ・地球環境にも人にもやさしい生活の在り方 ・地球環境を保全・創造する一員である自分	○多様な立場の人々の地球環境に対する思いや願い、見方・考え方の共通点・相違点に着目し、地球環境を支えている人・もの・こと存在に気づく ○地球人としての消費活動の在り方に着目し、地球環境と人との共存の在り方を見出す
表現・交流②	○「地球人の品格〇か条」をもとに、自分なりの地球環境の保全・創造への参画の在り方を見出すことができる	○「地球人の品格〇か条」をもとに、自分にできることを見出す ・自分らしい生活の在り方 ・自分なりの地球環境の保全・創造への参画の在り方	○人は矛盾した存在であることに着目し、自分なりの地球環境の保全・創造の在り方を見出す

#### 5 本時案一課題追求・8時分一

##### （1）主眼

自他の「地球人の品格とはズバリ！〇である」をもとに語り合い、地球にやさしい生活の在り方を見つめ直すことで、地球環境と人との共存の在り方を見出すことができる。

##### （2）準備

データ画像, 「自分なりの応えカード」, 「未来への架け橋メモ」 など

## 1 単元 「地球人の品格」

### 2 指導の立場

<子どもの実態から>

本学級の子どもは、第4学年でふるさとCMを製作しながら、自然環境が自分に与える影響を実感し、その存続の在り方に目を向け始めた。このような子どもが、多様な立場の人々の地球環境への思いや願い、見方・考え方を知ることが、より多角的な視点をもって自分の在り方を考える上で大切である。

<単元について>

本単元は、子どもが、地球人として生活の在り方を見つめ直すことで、地球環境と人の共存のために自分にできることを見出すことをねらう。子どもは、地球人に求められる買い方・食べ方・暮らし方などについて語り合い、「地球人の品格〇か条」をまとめる。そうすることで、自分の生活は、地球環境や人々のつながりに支えられ、自分の消費活動の在り方が地球環境を変えることを実感し、より積極的に地球環境の保全・創造に参画できるようになるであろう。

<指導上の留意点>

- 「未来への架け橋タイム」を設定し、自他の「地球人の品格とはズバリ！〇である」をもとに語り合い、それらが対応する状況を確認させ、自分の見方・考え方の偏りや矛盾点を明らかにできるようにする。
- 「ストレッチタイム」を設定し、「未来の架け橋メモ」を使い、書くことで自分の見方・考え方を整理させ、地球環境と自分の生活とのつながりに目を向けることができるようにする。

### 3 めあて

- (1) 地球環境と自分の関係について、進んで調べることができる。
- (2) 多様な立場の人々や友達とかかわり、「地球人の品格〇か条」をまとめることができる。
- (3) 自分にできる地球環境との共存の在り方を求め続けることができる。

(3) 学習の展開

	学習活動・内容	教師の働きかけ
見通す	1 A子が見出している見方・考え方や抱える問題について知る ・他者が見出してきた「地球人の品格」に対する見方・考え方	○多様な立場から「地球人の品格」をとらえ、人の生活の在り方の背後にある思いや願い、見方・考え方に気づいている子どもの抱える問題を提示し、自他の視点に着目させる
	2 A子や自分の「地球人の品格とはズバリ！」をもとに、「未来への架け橋会議」で語り合う  ・買い方・食べ方・暮らし方などと地球環境との関係	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;不安定状況の設定&gt;</p> <p>T 地球にやさしい生活と人にやさしい生活は両立するのか</p> <p>○消費者としての立場に着目して根拠を挙げているB男の見方・考え方を提示し、A子とB男の視点の違いを浮き彫りにする</p> <p>○A子とB男の見方・考え方の根拠となった事実をもとに、自分の見方・考え方とのつながりを見出しながら語り合わせる</p> </div> <p>T 自分の見方・考え方は、誰でも、どこでも当てはまるものか</p> <p>○自分の見方・考え方が対応する状況を確認させることで、自分の視点を強く意識させ、それらの偏りや矛盾に気づかせる</p>
追求する	・人の生活の在り方の背後にある思いや願い、見方・考え方 ・人々が置かれた状況と地球環境のためにできることとの関係	
振り返る	3 「ストレッチタイム」で、「未来への架け橋メモ」に、「未来への架け橋会議」から得た気づきを書く 「学びにおける立場を明らかにしようとする」 ↓ ・地球環境にも人にもやさしい生活の在り方	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;歩み出しの場の設定&gt;</p> <p>○「未来への架け橋会議」で得た気づきを見つめる「ストレッチタイム」を設定する</p> </div> <p style="text-align: right;">《歩み出し》</p> <p>○新たな視点や根拠をもって自分なりに考えをまとめようとしているか、「未来への架け橋メモ」</p>
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>習得する「追究スタイル」 地球人としての消費活動の在り方に着目し、地球環境と人との共存の</p> </div>	

在り方を見出す

への記述からみとる

予想される子どもの反応		教師の対応
<p>○自分と A 子の「地球人の品格」に対する見方・考え方の共通点と相違点を意識しながら意見を聞く</p> <p>○A 子は、「地球」と「家族」という視点との間で揺れていることに気づく</p>	安定	<p>○A 子の見方・考え方は社会を構成する多様な立場からの視点であることや、人の生活の在り方の背後にある思いや願い、見方・考え方を見出していることを意識させる</p>
<p>○自分が追求してきた事実をもとに、次のようなことを語る</p> <p>ア、人も地球環境の一部だから両立する イ、個人で取り組んでいることが、地球環境のためになっているのかどうか わかれば、長続きし、両立できるかも ウ、地球環境のことを考えたくても忙しい人は手軽な物を買うから、両立しないかも</p> <p>エ、一人一人立場や置かれた状況が違うので、同じ考え方をもつのは難しいから両立しない</p> <p>○自分の見方・考え方の視点を自覚し、次のような考えを見出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の行為が本当に地球環境の役に立っているかわかればやる気も出る</li> <li>・忙しい人は、わかっているでも地球にやさしい生活をするのは難しい</li> <li>・誰もが続けていける考え方もある</li> </ul>	不安定	<p>○抽象的な言葉のみで自分の見方・考え方を説明した場合は、自分の体験や収集したデータと絡め、例を挙げて具体的に語らせる</p> <p>○他者の見方・考え方に対しても、自分の体験や追求活動をもとに推論しながら語らせ、他者が見出した見方・考え方の背景にも目を向けさせる</p> <p>○多様な視点から「地球人の品格」をとらえ直していくことができるようにしていくだけでなく、自分の生活の在り方も意識させる</p>
<p>○次のような考え方を見出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の消費の仕方と地球環境にはつながりがあることに気づいた</li> <li>・無理なく続けていけることを行っていないと、生活も地球環境にもよい影響を与えることはできない</li> <li>・未来には、知らぬ間に地球環境にも</li> </ul>	安定	<p>○自他の見方・考え方を強く意識させるために、「自分なりの応えカード」に今の時点での「地球人の品格とはズバリ！○である」を書かせる。それをもとに、見方・考え方を変容させた子どもと、強固にさせた子どもを指させる</p>